参考資料１

これまでの広域計画等フォローアップ委員会で出された意見

検討項目１　国内における関西の位置づけについて

（１）関西の特性を活かすこと、関西の魅力の創出

【資源等の高付加価値化に関する意見】

- 関西は世界における多文化共生の先進地域であり、**関西の国際性**を見逃す手はない。単に経済的な軸というよりは、**社会・生活文化のような国際的な軸が大事**になってくると、広域的な観点から感じている。（第１回小委員会、新川委員）
- 観光について、**文化や伝統芸能を次世代に継承することが必要**。例えば、祭りと伝統芸能のカレンダーを作るため、フォトコンテストを実施し、応募された写真は、それぞれの行事に貼り付け、**視覚的に関西の魅力を発信**することを考えられないか。（第１回小委員会、松原委員）
- 観光を促進するためには、**神社仏閣や自然だけに頼ってはいけない**。リアリティがあるものだけではなく、例えば、ほとんどがトンネル内を走行するリニア新幹線の窓に外の風景を投影するなど、バーチャルなものも考えていかなければならない。多面的に観光というのを考えることが必要。（第１回小委員会、河田委員）
- 関西のおいしいみかんなどは、地域外では非常によろこばれる。それらを積極的に売り込んでいかなければならない。またそこから、**中にいてはその良さがわからないものもあり、外からの目で見るということも必要**だと感じる。（第１回小委員会、木村委員）
- 例えば、古墳時代、飛鳥時代、奈良時代において、和歌山県から奈良県までどのようにつながっていたかを今に残る文化遺産のリアルとバーチャルによって、好奇心を刺激するのがおもしろい。**火山活動の結果生じたリアルとしての今のジオパークとバーチャルでジオパークを眺める仕掛け**をつくるとおもしろい。関西なら色々なことが考えられる。（第１回小委員会、松原委員）
- 関西の特性を活かすという観点では、**「若者」と「女性」がキーワード**だ。府県単位でなくオール関西で、関西エリア以外から関西へ人を呼んでくることを目指して取り組むべき。関西に企業を育てる地盤があるのであれば、人を育てる地盤もあるだろうから、**若者の流出を食い止める、呼び戻す下地を作る、新しく関西へ迎える、女性が働きやすい関西をつくるなどの「場」づくりが必要**。（第２回委員会、加渡委員）
- 日本の技術力は転がり落ちるように（相対的に）低下している。**関西圏域において大学の技術革新に徹底的に投資する**との判断があれば、世界トップクラスの技術が身につくと評判になり人も集まってくるのではないか。選択と集中の機会は今しかない、と（フォローアップ委員会として）提案すべき。（第２回委員会、加藤委員）

（２）西日本に目を向けた施策

【交通インフラ等の整備に関する意見】

・　北陸新幹線は、北陸のためのものといったかつての関西の政財界の対応が北陸新幹線の整備の遅れをもたらした。この轍を踏んではいけない。**インフラを考える際は、８府県のエリアのみで考えてはいけない。北陸、四国、山陰までも含めて影響を考えるべき**。（第１回委員会、梅原委員）

・　四国新幹線は単線で十分である。東海道新幹線建設の時と比べ、技術が格段に進歩している。四国新幹線をモデルとして海外に売り込むことも可能になる。経済界は、四国、関西一体で取り組む。2.8 億円の調査費がついた。関西広域連合も、**四国新幹線についても、自らすすんで積極的にやっていくべき**。（第１回委員会、梅原委員）

・　首都圏では**羽田空港につながる公共交通や道路が充実**しているが、**関西は遅れている**。（第１回委員会、木村委員）

・　例えば、**道路整備においては**、現行のように、２車線道路の横に新しく２車線を追加するのではなく、**観光地に近いところに新しい２車線道路を整備するなど**、従来の手法に拘泥することなく、**新しい発想で取り組むことが必要**。（第１回小委員会、河田委員）

・　北陸新幹線ができて、石川県はかろうじて関西とのつながりが保たれているが、東京への流動が増えている。放っておけば四国と同様、関西とのつながりが途切れる。そのために、**北陸新幹線・四国新幹線を長期戦略として具体的に進め、新幹線を大阪中心に放射状に作らなければならない**。（第２回委員会、梅原委員）

・　関西と関東の決定的な違いは、交通ネットワーク、特に新幹線。関西も新幹線ネットワークを早く構築すべき。（第２回小委員会、梅原委員）

検討項目２　世界から人やモノ、情報が環流する関西

【観光に関する意見】

・　観光は、地域を豊かにするための手段。**京都、大阪にはインバウンドの観光客が多いが、地方には効果が及んでいない**。この課題をＤＭＯで検討していくこととされているが、財源が少ない。広域連合で観光税の導入を検討してはどうか。**地域振興のために観光を目的にどう税を徴収しそれをどう還元するのかということをぜひ検討すべき**。（第１回委員会、坂上委員）

・　インバウンドの人たちに関西の魅力を知ってもらい、自国に帰ってからも関西のものを購入してもらえるようにもっていき輸出につなげていくことを考える時代になっている。**観光と輸出との連携が次のテーマ**。（第１回委員会、坂上委員）

・　観光について、外国人がいっぱい来すぎているところとそうでないところがある。そのような状況を眺めているだけでは、その傾向は変わらない。**人と人とのつながりの中で観光を関西の中でどのように捉えていくか、検討する必要**がある。（第１回委

員会、御厨座長）

- 外国人富裕層を相手に、**その地域だからできるというオンリーワンなサービス**をしなければいけない。そういう売り込みが必要ではないか。（第１回小委員会、河田委員）
- 外国人に焦点を当てることも必要。**外国から「人」「カネ」「技術」をどう引きつけてくるか**議論しなければならない。（第２回委員会、加藤委員）
- 3,000 万人の海外の人が日本にやって来ると、今までの日本人の価値観からすると全く違う世界に転換しつつあるのではないか。観光政策、あるいは観光的活動へのシフトがまだできていないところが非常に多いことから、**関西の中でも観光格差が非常に大きくなっている。将来に向けて、しっかりと国際観光に対応していくことが必要**。（第２回小委員会、坂上委員）
- 関西を訪れた外国人観光客にとって、現地に帰っても観光地での生活が浸透していくような輸出への転換を行った方が、地域経済の効果にとっていいのではないか。**地域ブランドを活用して、輸出展開をすることが一つの方向**ではないか。（第２回小委員会、坂上委員）
- 東アジアだけでなく、**長期滞在型**の欧米の人たちにも来てもらえるような**観光施策**や、**地方空港を生かす観光施策が必要**。（第２回小委員会、梅原委員）
- 今の観光施策が本当に正しいのか、もう一度考える必要があると思う。**観光施策は、長期戦略を立てながら、それぞれの地域に合うようなものをつくっていくべき**。（第２回小委員会、梅原委員）

【留学に関する意見】

- 外国人（に関西にきてもらうこと）は大きなポイントだ。国レベルとしては（この発想を実現していくことは）困難かもしれないが、鍵は大学にあると思う。5 月に発表された世界の学生都市ランキングによると、トランプ大統領の不人気などもあり、海外留学先として人気がある街として、東京が 2 位、京都、大阪、神戸（関西）は 19 位にランクされている。アジアの留学生が日本に目を向け始めていると思われ、**連携して留学生を迎え、全体のパイが大きくなることで、オール関西での人の環流も増えると期待**できる。国はなかなか動かないが、**（連合が）大学と連携していろいろなことに取り組めるのではないか**。（第２回委員会、大南委員）
- **留学生をどう確保するのか**という点も、大学経営にとって非常に重要なテーマになりつつある。**大学のグローバル化を進めていくべき**。（第２回小委員会、坂上委員）
- 働き方改革が提唱されているが、**遊び方を豊かにしなければ**、外国からの留学生にとって、**将来の関西の環境が魅力的だと感じないのではないか**。クオリティー・オブ・ライフをもう少し見直し、そこに関西の優位性みたいなものが出てくるといい。（第２回小委員会、坂上委員）

【「アジアのゲートウェイとしての関西」に関する意見】

・　伊丹空港と神戸空港で定常的に国際便が飛ぶようになれば、観光客の偏在化を緩和できる可能性がある。（第２回小委員会、坂上委員）

検討項目３　関西のそれぞれの地域の活力を失わないようにするためにはどうするべきか

・　地域の活動などで、分野の異なる人々をつなぐ役割を担う人の存在が重要となってきている。自治体職員にその役割が求められることも多いが、実際には十分にその役割を発揮できる状況にはない。市町村域で「つなぎ手」がいる状態にすることが重要ではないか。世代や分野を超えたコーディネートができる環境が整えば、地域ならではのプロジェクトが動き出し、「関西のどこへいっても地域が元気」の実現が可能となるのではないか。関西全体を見ている組織でサポートができるとそれぞれの地域にとってもメリットがあり、そんな施策ができないかと考えている。（第２回委員会、山口委員）

・　地方にも、いいところは探せばたくさんある。学生は、地元に就職するのもいいし、地元から出ていっても地元のことを大事にするというのでもいい。大学は、学生に対してこういったことを教育すべき。（第２回小委員会、梅原委員）

・　「関西」といっても一括りにはできない。それぞれの地域が独自の魅力を出していくことが、関西の魅力ではないか。地域、地域で、特徴のある、特性を生かした、いい街にしていかないといけない。（第２会小委員会、梅原委員）